

# 人間関係づくり実践モデル事業 報告書

学校名（下関市立豊北中学校）

## 1 学校の概要

平成9年に豊北町4中学校の統廃合が提言されたのを受けて、平成12年「豊北中学校統合建設委員会」が発足。平成16年10月から中学校建設工事が始まり、平成17年12月に竣工。平成18年4月に開校を迎えた。

本校の校区は、山口県の西端に位置する豊北町全体である。ほぼ円形の本土と、橋でつながる角島からなり、澄み切った海と豊かな緑に囲まれている。168.6平方キロメートルの面積をもち、校区内に8つの小学校がある。生徒数312人のうち、6キロを超える遠距離通学生は222人に上る。通学方法も多岐にわたり、スクールバス利用者109人、路線バス利用者61人、JR+路線バス利用者50人、自転車通学者63人、徒歩通学者29人、その他1人である。

## 2 児童生徒の実態と事業の必要性

小規模の小学校で固定化された人間関係をつくって入学してきた生徒たちは、中学校でもその人間関係を基本としており、望ましい人間関係をつくれないうままでいることが多い。

また、2、3年生に進級するときにはじめてのクラス替えを経験し、新しいクラスになかなか馴染めない生徒もいる。

そのような生徒たちに対して、本事業を通して、SGE（構成的グループエンカウンター）を中心とした取組を中心に、生徒一人ひとりが集団の中で自分の「居場所」を見付けさせ、「自己肯定感」を味わわせたい。さらに、お互いの良さを認め合いながら、他者とも関わってける集団、そして、「いじめ」や「不登校」の起こりにくい集団をつくり、生徒同士にとどまらず、教員と生徒との信頼関係をも構築したい。

## 3 取組の紹介

### 【1、2年次】

#### (1) 下関市立豊北第一中学校における取組

平成16年度は、「構成的グループエンカウンター（SGE）の手法を用いた仲間づくり実践と研究」という研究主題のもと、宇部市立黒石中学校教頭 村上恭子先生を講師に招き教員を対象としたSGEガイダンスや、実践上の注意点などについて研修を行った。

平成17年度は「よりよい人間関係を築き、生き生きと活動する生徒の育成」～構成的グループエンカウンター（SGE）の手法を用いた仲間づくりの実践と研究～という研究主題のもと、構成的グループエンカウンター（SGE）の指導に関しては、山口県教育カウンセラー協会の安富淳子先生、生徒理解に関してはスクールカウンセラーの石津達哉先生を講師に招き、SGEを用いた授業研究とQ-Uを使った学級集団の把握とその活用についての研修を中心に年間10回の研修を行った。

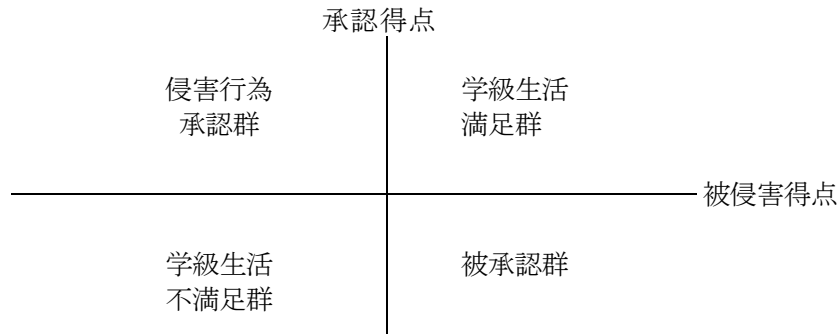
① Q-Uへの取組

Q-Uは生徒の学校生活における意欲や適応度を見る「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と、生徒の学級生活での満足感や充実感を見る「居心地のよいクラスにするためのアンケート」から成る。したがって、次のような目的のための資料を得ることができる。

- ・ 生徒一人ひとりの内面を理解する。
- ・ 生徒のタイプによる具体的な対応の方法を知る。
- ・ いろいろなタイプの生徒の分布状態から、その学級集団の状態を理解する。
- ・ 学級集団の状態から、今後の学級経営の指針となるモデルを得る。
- ・ いじめ被害を受けている可能性のある生徒を発見し、適切に対応する。
- ・ 不登校に至る可能性が高い生徒を見だし、支援する。

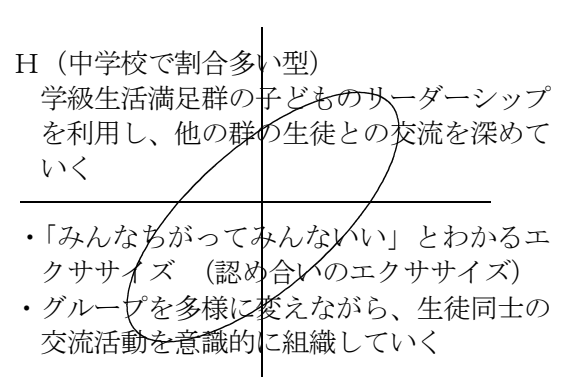
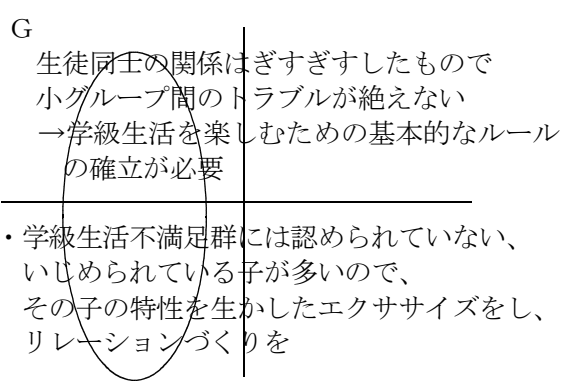
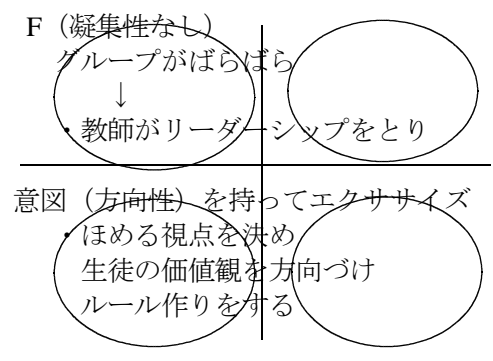
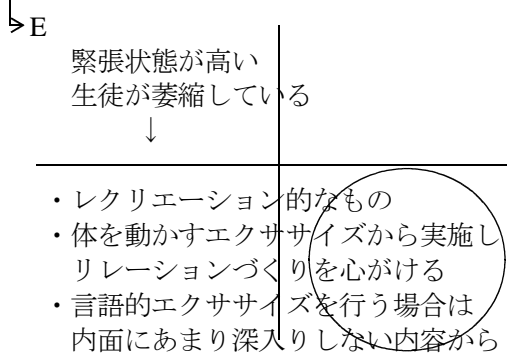
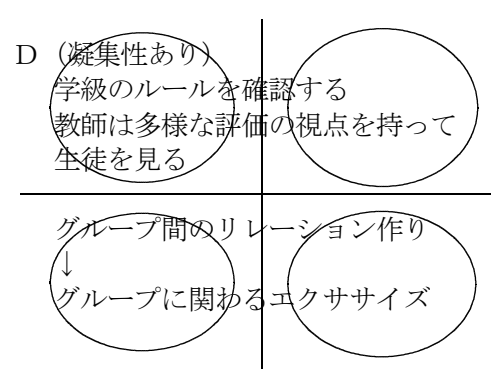
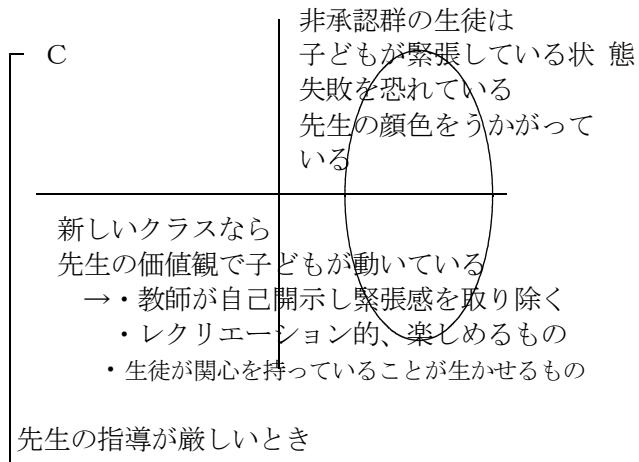
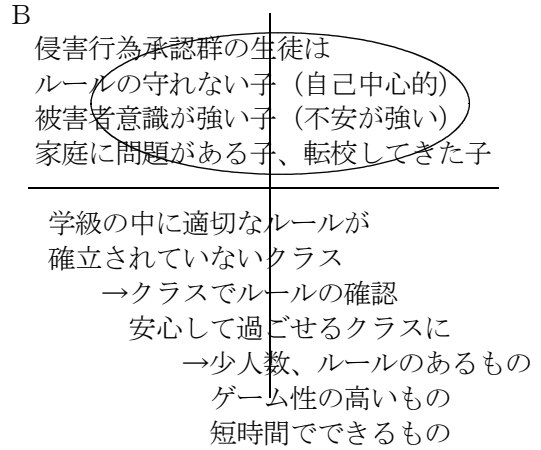
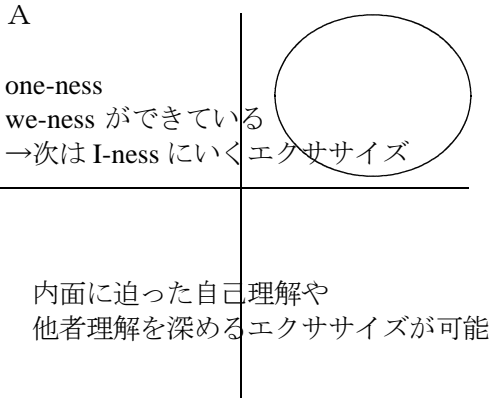
また、最近では、「エンカウンター」の指導後の効果測定によく用いられているようでもあり、6月と12月の2回実施し、業者に分析を依頼することにした。

② 分析結果とエンカウンター

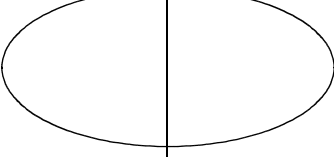


代 表 的 な 型	構成的グループエンカウターの実施
学級生活満足群・優位型	どのようなエクササイズでも適応。学級生活満足群以外の生徒にダメージを与えることがないように特に配慮が必要。
被承認群・優位型	体を動かさずエクササイズから実施し、リレーションづくりを心がける。男女別など抵抗感をもたせない形で行うよう配慮する。
侵害行為承認群・優位型	「新聞の使い道」など言語を使わずにリレーションを深めるエクササイズが有効。グループで行うエクササイズについては、グループ内に侵害-被侵害の関係ができないようグルーピングに注意。
学級生活不満足群・優位型	エンカウンターを実施するのは望ましくない。個人作業を基本にして、クラスの状況を見ながらリレーションづくりのエクササイズを試みる。


大まかに分けると上のようになるが、さらに細かい読みとりを、講師の安富先生より指導していただいた。



I (Hを失敗すると)

<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒間の人間関係してやろうという</li> <li>↓</li> <li>教師と生徒個々及び</li> <li>回復することが大切</li> </ul>	<p>が不十分でみんなで協力的意欲に欠ける</p> <p>び生徒間の信頼関係を回復</p>
<p>2人でできるエクササイズから</p> 	

J (Iがさらに進むと)

<ul style="list-style-type: none"> <li>過半数を超える生徒は</li> <li>生徒同士、グループ同クラスはバラバラでない</li> </ul>	<p>不満足群にいる</p> <p>士トラブルが噴出し、んかやいじめが絶えない</p>
<p>学級崩壊の状態</p> <p>エクササイズが成立し</p> 	<p>ない</p>

③ 今後の課題

Q-Uの分析結果を見ると、その時点での学級の人間関係がよくわかり、学級経営の上で大変参考になった。担任が感じている問題点が、担任の独断ではなく、客観性を持つからである。したがって、1回目の結果を参考にしながら、エンカウターの授業を試みることができた。しかし、当初の目的であるエンカウターの指導後の効果測定には至らなかった。それは、実施時期の問題であろうと考えられる。調査・集計部会では、「3年生の12月などでは体育祭や文化祭などの学校行事も終わり、高校受験に向けて勉強をしなければならない時期であり、学級に目が向かないのではないか」「行事が多い2学期の満足度が高いため、回答が行事に左右されやすいのではないか」という意見が出た。Q-Uの実施解釈ハンドブックによると、学級経営の指針や生徒への対応を考えたい場合は5月、10月、2月の3回の実施が効果的であり、生徒や学級集団の1年間の変容を確認したい場合は、4月中旬と翌年3月上旬に実施するのがよいとある。今後、学校行事との関連も検討して来年度の実施回数と時期の検討が必要である。

また、調査・集計部会では「エクササイズによって学級がどのように変わったかなどという成果を見るのではなく、純粹に学級の状態を知るのにはよいアンケートではないか」「満足度尺度表の中で、学級生活不満足群の生徒がわかることで、配慮が必要な生徒を見つけることができるので、学年で結果をしっかりと検討するとよい」「学級生活満足群にいるからといって、結果は信用できないのではないだろうか。教員が結果を見ることを意識し、教員から期待されるような生徒でありたいと思い回答を選ぶ生徒がいるのではないか。また、何も考えずに回答する生徒もいるのでは」という意見も出た。

(2) 1、2年次の成果と課題

平成16年度は1年生を中心に2回の授業研究を行った。平成17年度は、授業研究として行ったものは5回であるが、各担任は短学活や学級活動の時間を中心に、折に触れSGEを実施した。その結果、教師も生徒もよい意味でSGEに慣れてきており、スムーズに授業が運ぶようになっている。これからは、教師の個性を生かしつつ、指導者

として心得ておかなければならないことを理解し、より楽しく、有意義なSGEとなるよう研鑽を積んでいかなければならない。また、各教科や総合的な学習の時間等の中でも意識してSGEの授業を行っていくことも必要であろう。次年度は豊北町4中学校の統合の年で、人間関係づくりは新中学校経営の重要な柱となると予想されることから、Q-U等で調査し、その資料を有効に活用することが大切であると考えた。さらに、検査結果に対するエクササイズを具体的な名前で調べておくこととすぐに実践できるので、対応表のようなものを作成するとよかった。

本年度は各学級単位でショートエクササイズにも時間を決めて取り組む予定であったが、実施できなかった。しかし、全校集会や豊北町4中学校の交流会などでは、エクササイズを行う機会をもつことができた。次年度にさらにいろいろな集団でのエクササイズを実施していくことが必要となった。

最後に、本校のこれまで2年間の実践をふまえ、さらに他校の実践資料を基に、来年度に向けての年間指導計画の素案を作成した。これは、来年度の総合的な学習の時間の内容や学校行事との関連を考慮して、本年度実施したものをできるだけ採用した形で学級活動の時間に実施することを前提として考えたものである。次年度に向けて、この年間指導計画案や本年度収集した他校の年間指導計画を参考にして授業実践を行いながら、発達段階を考慮した3年間の流れを考えると共に、各教科や短学活でのショートエクササイズの取り組み等、横のつながりも考えた年間指導計画等を作成していくことが課題となった。

### 【3年次】

#### (1) 下関市立豊北中学校における取組

本校は4月に開校し、教職員のメンバーも大きく入れかわった。そのため、豊北第一中学校での取組を土台にしなが、まず、教職員自身が構成的グループエンカウンターについての研修を深めることからスタートした。山口大学人文学部の林 伸一教授を講師に招き、校内研修を3回実施した。3回目には、研究授業も交え、より実践的なSGEの手法について学ぶことができた。

研修成果を踏まえ、学級活動だけでなく、朝夕の学活や、教科授業の中でショートエクササイズ等を取り入れた実践等も行った。また、授業公開日には、全クラス一斉にSGEを取り入れた授業を行い、保護者・地域の方にも取組の一端を発表できた。

学級集団の実態を把握するために、5月と10月の2回Q-Uを実施し、分析の仕方や活用する方法について、安富 淳子先生を講師に招いて研修を行った。



### ① 実践例<1>

本学級では、5月のQ-Uの結果から学級生活不満足群と非承認群に属する生徒が半数を占めた。学級内で孤立し友人からサポートを得られないと感じている生徒や、承認得点が低くクラスのみならず認められていないと感じている生徒が多い学級であるということである。そこで、それぞれの個性の違いに気付き、お互いを認めあえる集団づくりをめざしたSGEを実践した。以下は、その時の方法と生徒の感想である。

#### タイムトラベル

トラベラーが廊下にいる間に教室の一人が教卓に隠れる。戻ってきたトラベラーが制限時間内に隠れた友だちの名前をあてる。

- ・ 楽しかった。もっとタイムトラベルをやってみたかったです。
- ・ タイムトラベルでは、自分のことをなかなか見つけてくれなくてショックでした。

#### トラストウオーク

2人組をつくり、片方が目隠しをして目を開けている人が誘導する。

- ・ 物が見えなかったのが一番怖かったです。視力障害のある人の気持ちがよくわかりました。
- ・ トラストウオークでは、手すりのありがたさがわかりました。声を出して誘導してくれるのでわかりやすかったです。
- ・ かなり怖かったけど、友だちを信頼すれば大丈夫だと思いました。



#### 4つの窓

テーマについて4つの選択肢から自分にぴったり合うものを一つ選ぶ。同じものを選んだ者同士で理由を伝え合う。全体でシェアリングをする。



- ・ 楽しかったです。色々な人の意見をたくさん聞くことができました。人それぞれの意見があって、個性的なものもありました。
- ・ それぞれの人が自分の思いをもっていたので良かったです。

② 実践例< 2 >

○ 本時のねらい

本学級では5月のQ-Uは、非承認群に属する生徒が8名であったが、10月の結果では行事やその後の学校生活で学級生活に満足を感じることで、他の群に変わった生徒がいる。しかし、未だに学級で疎外感を感じている生徒もいる。前回のエクササイズ「ジョハリの窓」ではいろいろと意見交換をし、今までに知らなかった友だちの一面を知るよい機会となった。そこで今回は「権利の熱気球」でそれぞれの価値観にふれ、自己理解・他者理解を深めるとともに、非承認群の生徒が学級所属満足感を得られる仲間づくりをめざしたい。

○ 学習過程

時間	学習活動	教師の支援
10分	1 グループづくり [ショートエクササイズ] くじで無作為に図形を選び、合わせると正方形になる仲間を探す。	ウォーミングアップとし、自分から進んで友だちと情報交換をさせる。
7分	2 権利の熱気球 (「エンカウンターで学級が変わる Part 2」 國分康孝 図書文化より) まず個人で『権利の熱気球』カードに、捨てていく順番とその理由を書く。	演習に取り組みやすくするため、目を閉じて状況(条件)説明を聞かせる。
15分	4人グループを作り、お互いの順番と理由について発表し合い、自由に話し合う。	順位の違いは価値観の違いであることを確認させ、互いに批判することがないように注意する。
10分	3 シェアリング エクササイズを通して、気付いたこと、感じたことをグループ内で自由に出し合う。  出てきた意見をグループごとに発表する。	発表者が固定しないように助言する。
8分	4 まとめ 振り返りシートに授業の感想を書く。	静かに本時の活動をふり返らせる。

○ 評価

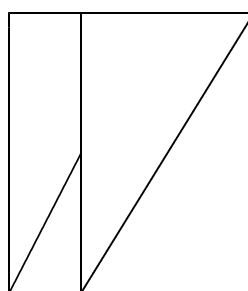
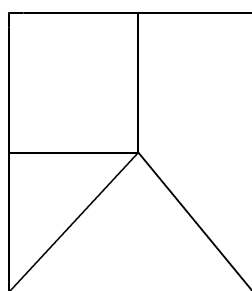
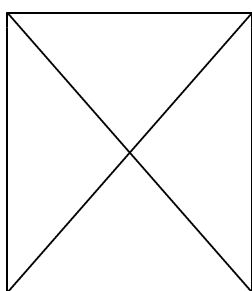
- ・ それぞれのエクササイズに楽しんで取り組むことができたか。
- ・ 自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞くことができたか。

○ 気づき及び今後の課題

「グループづくりのためのショートエクササイズについて」

前回の授業では四字熟語によるグループづくりを行ったが、お互い知恵を絞りながらのグループづくりができていた。そこで今回はさらに意見交換が活発にできることをねらい、図形によるグループづくりに取り組んだ。しかし、教師のねらいとは裏腹に、図形が難しすぎ、意見交換が思うようになされなかった。単純な形ほどねらい通りに生徒が活動できるようだ。

〔準備した図形〕（8パターンのうちの3つ）



\*他のグループと同じ形の場合は、目印に割り印をして、印を合わせるように作成。

「権利の熱気球について」

エクササイズの取り組み前に、「熱気球が墜落しそうです。このままだと海に落ちて、死んでしまいます」という条件提示が充分浸透しなかったように思う。どの権利から捨てるかを考えさせるのに、生徒の中には助かった後のことを考えて、何を残すべきかが選択を左右させていた。いろいろ複雑に考えず単純に作業に取り組めるよう、事前に予想されるべき生徒の反応を細かくチェックしておくべきであった。

また、前回の「大切にしたいランキング」のエクササイズでは、4人のグループ内だけでの意見交換であったが、友だちの知らない一面に触れられたという感想が多かった。今回はグループ内の意見交換にとどまらず、それを学級全体に広げて発表・まとめまで展開した。確かに生徒はいろいろな考え方があり、人それぞれだということを再確認したが、学級内で疎外感を感じていた生徒にとって『いじめられたり、命令・服従を強制されない権利』を最初に捨てる権利として挙げられことは、少々ショックだったようである。さらに、このエクササイズでは指導上の注意として「最初に捨てる権利に良し悪しはない」とあったため、本授業内で教師が意見を述べることはできず、後日道徳の授業などでフォローが必要だと強く感じた。

○ 生徒の感想（振り返りシートより）

問「今日のエクササイズはどうでしたか」

- ・とても楽しめた 4人
- ・まあまあ楽しめた 9人
- ・どちらとも言えない 7人
- ・あまり楽しくなかった 1人
- ・楽しくなかった 2人

問「今日のエクササイズは自分のためになりましたか」

- ・とてもためになった 4人
- ・ためになった 2人
- ・どちらとも言えない 11人
- ・あまりためにならなかった 3人
- ・ためにならなかった 3人



## ○ 感想

- ・ けっこうおもしろかったです。最初はグループづくりをするのがイヤだったけど、やっていて楽しかったです。
- ・ なかなか仲間が見つからなかったのが大変でした。自分から声をかけて仲間を探すことが大切だと思いました。
- ・ 人はそれぞれかなりものの価値観が違うんだなと思いました。自分の価値観を押しつけず相手を理解していくことが、社会で生きていく上で大切だと思いました。
- ・ 他人の意見が聞けるいい機会になったと思います。こういうチャンスはあまりないので生活に生かせるようにしたいです。

## 4 3年間を通した取組の成果と課題

4校が統合するというところで、昨年度から合同の宿泊研修や、下関市内1日研修、生活技能コンテストなどを開校前に実施してきた。その中で実践した構成的グループエンカウンターやAFPYは生徒間の人間関係づくりに有効であり、継続した取組が必要であると実感した。開校後は新しいスタッフで手探り状態の中、豊北第一中学校で作成された年間指導計画を土台に一年間SGEの実践に取り組んできた。教員自身がSGEの研修を積み重ねることによって、教員集団の雰囲気になごやかになり、研修に対して前向きに取り組むことができた。講師の指導によるSGEの研修の効果を実感しながら、生徒にその成果を還元していく実践は、SGEの授業における生徒の立場と、リーダーとしての教師の立場を両方経験することができたので、特に有意義であった。

また、実践を繰り返していくうちに、道徳や学活の授業だけでなく、教科授業の導入部や短学活、全校集会などの生徒会活動の中でショートエクササイズを取り入れることの大切さや効果に気づくこともできた。

年2回実施したQ-Uの結果により、各学級集団及び本校全体の傾向を客観的にとらえることができ、生徒理解に役立った。緊張状態が高く、階層化された学級集団の傾向がみられる本校生徒は、言いかえると生徒の人間関係が希薄で、教師の評価を気にする傾向があるということになる。この傾向は10月のQ-Uでもあまり変化がみられず、学級集団の中に居場所を見つけられない生徒が依然多いことを表している。

今後の課題は、このような本校の実態にあったSGE（自己開示をあまり求めないレクリエーション的なものや体を動かすエクササイズ）を数多く選択し実施することによって、生徒間及び教師と生徒間のリレーション作りを進めていくことである。そのためにもより具体的な年間指導計画を作成していくことが必要である。

「人間関係は作るものではなく培うものである。」  
時間はかかるが、培うためにはどのような環境や条件を準備してやればよいのかを、これからもしっかりと考えていきたい。



## 5 提案プログラム【第1学年】

時期	ねらい	活動内容（方法）	備考
4月	入学直後の新しい学校生活において、緊張を和らげ、集団に慣れる。	<バースデーリング> 1月1日から12月31日までの誕生日順に無言でリング状（あるいは一列）に並ぶ。	学活
5月	少しずつ集団生活に慣れはじめたものの、まだよく知らない級友との交流の機会をつくる。	<自分探し> エゴグラムの作成や結果を通して生徒が自己啓発の具体的な視点をもてるようにする。	学活
6月	友だち関係が固定化されはじめるため、まだ友だちの輪を広げるきっかけをつくる。	<合わせアドジャン> グループ全員が同じ数字を出すために、気持ちを合わせたり、話し合ったりする。	学活
7月	生徒の自己理解を深め、加えて、友人の良いところを進んで見つけようとする態度を養う。	<すごろくトーク> すごろくの要領で、マスに書かれたテーマについて、率直に自分のことを語り、また友だちの話をじっくり聴く。	学活
9月	大きな行事が開かれる2学期はじめに、学級の協調性や団結力を高める一助とする。	<宝探し> 一人一枚ずつのヒントカードをもとに、グループで協力し合って、宝島の地図を製作する。	学活
11月	学年の折り返しを迎え、改めて友人の素晴らしい点を確認・共有し、お互いに尊重できる関係を築く。	<名刺交換> 一人ひとりの名前を書いた名刺を、交換しながら、必ずその人の長所を述べてあげる、それを名刺の裏に書いてあげる。	学活
12月	行事が一段落し、友人との価値観の相違などから、対立したり、孤立したりする場面がみられるため、自分の意見を開示しつつ、相手の立場・考えを尊重できるようにする。	<無人島からの脱出> 無人島から脱出する際に、どのアイテムが必要か不要かを考え、互いに意見を出し合いながら、グループなりの結論を導く。	学活
1月	自分の考え方と相手の考え方の差異を感じつつ、相手の理解に努めることを通して、新たな自己発見や他者理解につなげる。	<ゲス・フー> 5人（場合によっては4～6人）でチームを作り、対戦チームを決める。各チームで答えに相手の人間性が表れるようなクイズを出題し、対戦相手の誰がどの答えを書いたか予想する。	学活
3月	学級への所属意識の強さが新しい環境への抵抗感を感じ始める時期であるが、自分の生活（1年間）を振り返りつつ、希望をもって未来を思い描く。	<〇年後の私からの手紙> 〇歳（教師側で設定）の自分になったつもりで、現在の自分に宛てた手紙を書き、回し読みしながら、書いた人への励ましを書いて交換する。	学活

【第2学年】

時期	ねらい	活動内容（方法）	備考
4月	クラスがえ後の不安な気持ちを解き、新しい仲間づくりの機会とする。	<バースデーリング> 1月1日から12月31日までの誕生日順に無言でリング状（あるいは一列）に並ぶ。	学活
5月	生活班での活動を始めた頃であり、班員同士が協力しようとする気持ちを高める。	<私の団地> 班で、各自がもっているヒントを班員にわかりやすく説明することによって、不明になっている団地のマップを完成させる。	学活
6月	集団生活に慣れ始めた時期になり、自分と友だちとの共通点に気づき親近感を深める。	<友達ビンゴ> ビンゴカードに好きな食べ物を書き込み、じゃんけんをして、勝った人からカードに書いた好きな食べ物の理由を言う。同じ食べ物を書いた人には手を挙げてもらい、お互いに○をつける。	学活
7月	1学期を振り返り、まだ仲間意識の薄い生徒とのふれあいとする。	<合わせアドジャン> グループ全員が同じ数字を出すために、気持ちを合わせたり、話し合ったりする。	学活
9月	仲間の長所を進んで見つけ、相手に伝えることで相互理解を深める。	<すごろくトーク> すごろくの要領で、マスに書かれたテーマについて、率直に自分のことを語り、また友達の話をしつくり聴き、相互理解を深める。	学活
11月	選んだ職業を通して、自分の価値観や個性に気づかせる。	<私の価値観と職業> 職場体験学習に取り組む過程を通して、グループ内で質問や意見交換を行う。 振り返り用紙に気づいたことを整理する。 自分が選んだ職種のカード同士で集まり、その理由をカードに記入し、紹介しあう。	学活
12月	体育祭や文化祭などの大きな行事を通して見つけた他者の良いところを伝え合うことによって、自己肯定感を高め、和やかな人間関係をつくる。	<気になる自画像> 自分とグループのメンバーに当てはまると思う特徴を選び、一人ずつ選んだ特徴を伝える。言われた人はその特徴をワークシートに書き込み、自分が選んだものと比べる。	学活
1月	他者の良いところを書くことによって、友だちを思いやる心の大切さに気づかせ、自らの向上に努める態度を育てる。	<Xからの手紙> 予め教師が生徒の宛名を書いた手紙を配り、それにその人の良いところや頑張っているところを書く。それを回収して配り直し、2～3人からメッセージがもらえるように繰り返す。最後に自分宛の手紙を受け取って読む。	学活
3月	4月から最上級生になり、身近に迫る進路決定に備え、自分のことを見つめ直す機会にする。	<1年後の私からの手紙> 15歳（教師側で設定）の自分になったつもりで、現在の自分に宛てた手紙を書き、回し読みしながら、書いた人への励ましを書いて交換する。	学活

【第3学年】

時期	ねらい	活動内容（方法）	備考
4月	クラスがえ直後の学級で、新しい集団での友だちづくりを促進する。	<よろしく握手> スタートの合図で相手を探し、出会った相手と握手をして、「実は・・・な〇〇です。」と自己紹介をする。制限時間内に相手を変えて握手、自己紹介を繰り返す。	学活
5月	クラスの間人間関係に固定化が生じてくるこの時期に、自分の存在を確かめ、クラスへの所属意識をもたせる。	<タイムトラベル> トラベラーが、廊下にいる間に教室内の一人が教卓に隠れる。戻ってきたトラベラーが、隠れた友達を当てる。	学活
6月	生徒の自己理解を深める。教師が自己啓発への努力をする生徒を励ます視点を具体的にもつ。	<自分探し> エゴグラムの作成や結果を通して生徒が自己啓発の具体的な視点をもてるようにする。	学活
7月	日頃あまり話したことの無い相手との親近感を高める。また、自分の感じ方や考え方を明確にする。	<4つの窓> テーマについて、4つの選択肢から自分にぴったり合うものを1つ選ぶ。選んだもののコーナーに集まる。同じものを選んだ人の同士で、理由を伝え合う。	学活
9月	大きな行事が開かれる2学期はじめに、学級の協調性や団結力を高める一助とする。	<トラストアップ> 2人組で向かい合って座る。つま先同士をつけ、手をつなぎ、かけ声で同時に立ち上がる。4人、6人と人数をふやしていく。	学活
10月	友だちの価値観にふれることによって、他者理解を深める。	<大切にしたいランキング> 中学校生活において大切にしたいと思うものを、ワークシートの中から選び、その理由を書く。	学活
11月	自分自身および仲間の価値観や考え方を知り、自己理解・他者理解を深める。	<権利の熱気球> 教師から「権利の熱気球」の課題・状況を聞く。助かるために10個の荷物（権利）を1つずつ捨てていく順番とその理由を個人で考え発表する。	学活
12月	ロールプレイの手法を使って面接入試を模擬体験することで、実際の面接入試に対する心構えをもたせる。	<模擬面接> 4～5人グループになり、受験生・チェックマン1名ずつ、面接官を決める。過去問を参考に5分間模擬面接をしチェックリストを参考に2～3分感想を話し合う。交代して全員が実施する。	学活
1月	中学時代の最終的段階で、今後に対して夢と目的をもたせ、同時に今後の自分の生き方・あり方を考えさせる。	<10年後の私> 4人組をつくり、雰囲気づくりのため、キャッチフレーズをつけた自己紹介を全員が順番にする。10年後の自分を想像し、思いつくことを自由に記入する。グループで交換して読み、感想を話し合う。	学活
2月	卒業に向けてクラスメートとお互いに思っている意見を交換して自分の成長を確認し、新しい門出に向けての決意を固める。	<別れの花束> 目を閉じ3年間の中学校生活を振り返り「思い出深い場所」、「私を支えてくれた人」を思い出しながらワークシートに記入する。手紙に贈る言葉を記入し、グループ内で交換し合う。	学活